

日本バプテスト連盟 全国壮年会連合

東京地方壮年連合通信

Vol. 6 7

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN 2015年9月25日

「選ぶべき道」

「主を畏れる人は誰か。主はその人に選ぶべき道を示される
であろう」（詩篇 25 編 12 節）

花小金井キリスト教会牧師 藤井秀一（ふじい しゅういち）

東京地方連合に連なる壮年の皆さま。4月から花小金井キリスト教会の牧師をしています藤井秀一です。よろしくお願いたします。今年の3月までは東北連合の酒田開拓伝道の働きに8年半仕えていましたが、その前は常盤台教会、恵泉教会におりましたので、東京連合には友人も多く、古巣に帰ってきた思いを抱いているところです。

さて、バプテスト教会の牧師招聘は、招聘を願う教会と、当人との間に起こる神の出来事です。教会がある人を招聘したいと願い、その人もその教会から招聘を、神の「召命」と受け止めて決断します。その際、決断に至るまでに、何の迷いもなくスムーズに決まるケースもあるでしょうが、多くは迷いや悩み、考えた末に、神の招きと信じるに至って、決断に至るものではないかと、推察します。

わたしの場合ですが、まず9年前に東京の教会から、酒田の開拓へと出ていく決断をする時、本当にこの道でいいのだろうかとずいぶん考え悩みました。その時は、考えれば考えるほど恐れに取りつかれ、行き詰ってしまいました。それで結局、母教会にお断りの手紙を書いたのです。それによって悩みから解放され、安心できたのですが、なぜか心に平安はなく、その手紙をどうしても出す気持ちになれなかったのですが、その夜、母教会から「酒田に来てほしい」という電話での連絡を頂いた時、不思議な平安と確信と感動を頂いて、酒田に行く決断に至ったのでした。

また今回、その酒田を離れ、花小金井教会にやってくるプロセスにお

いても、実は当初は「今、酒田からはなれるわけにはいかない」と、招聘の招きを「迷いつつ」お断りしたのです。しかしそこには「迷い」もあったのです。「今、ここを離れるわけにはいかない」のは、実は、ただの自分のプライドであり、この働きを握っていたという「エゴ」ではないのか、という心の深いところに問いかけてくる声が、「迷い」として、わたしの断りの言葉に現れていたのです。招聘を担当された方は、その私の「迷い」を感じ取られました。そして一旦は断られたにも関わらず、再度わたしに連絡してくださり、遠く酒田にまで足を運んでくださったのです。この一連の出来事を通し、私はこれは主からの「召命」の出来事なのだと思えるに至り、新しい道に歩みだす決断をすることになりました。人間の心は、自己欺瞞や自己正当化という仕方で、自分自身をさえ欺きます。自分の思いを、神の御心とさえ思わせたりします。そのように自分の思いに逃げこもうとするわたしたちに、「本当に、それでいいのか」と問いかけてくださるお方を畏れて、その声に聞こうとする時、主はその人に、教会に、壮年連合に、選ぶべき道を示してくださるのではないのでしょうか。

「第 50 回全国壮年大会に出席して」

日本バプテスト大阪教会 汐満達朗・喜久子

記念すべき第 50 回全国壮年大会が、8 月 20 日、21 日東京都大田区産業プラザと大井バプテスト教会で開かれました。準備にあたられた兄弟・姉妹、場所を提供してくださった大井教会に対し深く感謝申し上げる次第です。総会は事前配布資料と当日配布資料をもとに、討議され、13 の議題に対して採決が行われました。配布資料の中には、37 年に亘る貴重なデータも集積され、これからの 10 年間の歩みに対して、負の有意差が予見されますので、一層の努力を要請された思いでした。

翌日、特別授業の冒頭、須藤先生が神学生時代に受けた奨学資金に感謝され、思わずジーンとくるものがありました。(汐満達朗)

第 50 回壮年大会に出席できたこと心から感謝申し上げます。「人と人とのつながり」とのテーマで賀来周一先生のお話を伺いました。(主題聖句:ローマ書 12 章 15 節「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。’)人は如何に自分の居場所があるかと云うことで不安を感じている。私たち信仰者は教会という居場所、何時でも安心して居られる所があります。が、居場所の無い人が多くあります。賀来先生は、教会はこの社会に於

いては極めて稀有な集団です。年齢・性別・性格・能力・人種・価値観等を異にしても、誰もが身を置く事の出来る集団として、社会に存在しています。が、信仰者でない生きづらさを抱えた方々への教会のあり様について学ばせて頂きました。また、「人と人とのつながり」は、主にある隣の隣人愛を通して私たちが「キリストのからだ」「神の民」として、証しをしていくことが大切である。賀来先生の著作「こころを病む人と生きる教会」に心の病を持つ方が、「わたしの病気が治るか治らないかは、どちらでも別にかまわない。信仰は病気とともに生きることが出来るわたしをつくってくれた。」とありました。私は教会を通してどこまで「癒し」が、「救い」が出来るかと内心思い上がっていました。この方の言葉で先生は、これを「癒し」と言わずして何というのでしょうか。病む者も健康な者も弱者も強者も喜ぶ者も嘆く者も等しく人として「救いの中に包括されています」。と述べられています。私はこのことを通して主にある交わり、主の導きを感じ、私たちの思いを超えた所に、神様の愛を感じることができました。今までの私の信仰生活は何であったのかと身の引きしめる思いがしました。

また、過去3回（名古屋、福岡、広島）と、今回の壮年大会に出席しまして、壮年の方々の神学校への尊いお働きを感じる2日間でありました。壮年会、女性会と別々に考えるのではなく、是非多くの方が出席され人と人との主にあるつながりを大切にしていけることが出来ますようにと祈りつつ、帰阪しました。此の度の大会のお役をして下さった皆さまに心から感謝申し上げます。在主（汐満喜久子）

大会主題「人と人とのつながり」は化学屋（ケミスト）にとって、イエス・キリストという媒体があってこそ、一つにされるその条件設定だと思っています。「カタラツソー」（Καταλυτικός - catalyzer change）はこれからでたのだよ・・・とは児玉忠重先生の「私に対する教え」を思い出しながら、大井教会を後にしました。感謝（汐満達朗）

◇ 2015年度神学校献金(目標500万円)のお願い ◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。先日の全国壮年大会 in 東京においても、神学生に対する熱い議論が交わされました。伝道者の育成を支える壮年の役割への期待と大きさを再認識しました。

昨年1014年度は、東京は467万円の献金が捧げられました。本年度は500万円の目標を掲げています。皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

